

平成19年1月15日

火山噴火予知連絡会

第1回 火山活動評価ワーキンググループ 議事概要

1 検討内容とスケジュール、今後の作業方針について

本ワーキンググループの検討内容とスケジュール、今後の作業方針について議論した。

(中長期的な噴火発生可能性の評価方法)

- ・ 原則として、全国の活火山を対象とし、中長期的観点からの噴火の可能性について検討する。中長期的な噴火発生可能性については、概ね100年以内で噴火する可能性を検討する。なお、評価が困難な火山については、「不明」として整理する。
- ・ 噴火履歴と現在の火山活動状況から、火山学的な評価により噴火発生の可能性を噴火規模と合わせて検討する。この際、評価結果が防災対策に活用されることを念頭に、必要に応じ、噴火が周辺に与える影響（周辺の居住地等までの距離等）についても考慮して整理する。

(噴火シナリオの点検)

- ・ 火山噴火に適切に対処するためには、噴火等の推移と影響範囲を時系列的に示す噴火シナリオを用いて、あらかじめ防災対策の検討を行うことが重要である。噴火シナリオについては時系列的な妥当性の検討が必要であり、関係する各機関と連携のうえ、必要な火山学的見地からの点検を実施することが望ましい。
- ・ 噴火シナリオが、今後の火山防災対策を進める上で適切な内容であるかどうかについての点検を開始するにあたり、シナリオ作成の前提条件、シナリオに含まれるべき事項、等について今後議論し整理する。

2 樽前山、浅間山の噴火シナリオの点検について

気象庁で作成された各噴火シナリオの資料について概要の確認を行い、意見を聴取した（第2回WGにかけて点検を実施）。